

日本人のための文型

岡 田 堯*

Sentence Patterns for Learners in Japan

Takashi OKADA

(Received August 23, 1972)

1

かねてから文型に関連して考えてきたが、更に考えを進めることができたので、前回までのものを大きく改めて新しい試案を示したい。

言語は決してすっきりした形に割り切れるものではないが、次のような目標をもってよりよき文型の試案設定へと進んだ。

1) 日本人が英語を学習するのに好都合な文型

現在 Hornby の pattern が辞書に取り入れられてたいそう役立っているが、初心者にとっては残念ながら利用価値が乏しい状態である。また開隆堂から出ている英語教育叢書にある『必修文型の研究』は、たいそうよい研究であり、中学校における英語指導に大きな指針となってきたと思われる。以上を参考とし、他の考えを入れて、紀要の第6巻に述べた「文の円球構造」を基礎として文型を設定する。

2) 英文について日本語訳との関連を考慮し、文型の設定には文の意味も考慮する。

3) できるだけすっきりした、簡単で系統だったものとする。

以上の目標をもって進み、先の考を改め、また問題点として取り上げたものは次の点であった。

1) 円球構造の基本原則は従来の通りである。

「英文の主語を中心とし、その周囲に述部を円形に左廻りにならべた場合、和訳される語順は、述部について反対の右廻りとなる。」

第1図は円球構造を示す。5部からなる。1部は主語の位置、1部に接する5部は主語の修飾語句および文の途中に挿入される副詞語句の位置である。2部の2Aは助動詞、2Bは本動詞、2Cは「be動詞+形容詞」の場合の形容詞の位置である。その他3・4・5部は前号に記したのと同様である。

2) 2部については、前号で‘want to’を助動詞に入れることにしたが、日本語の意味からだけでは無理な点があるので、これをやめることとし、want は本動詞として扱うこととした。また2Cにすべての形容詞の動詞に続くものを入れていたが、それにも無理な点のあるのを考慮して改めることとした。日本語の場合、形容詞単独で、または形容動詞として述語となる場合の多くが意味の上から「be動詞+形容詞」に似ていることから考えて、「be動詞+形容詞」を動詞句と見なし、2Cはその場合の形容詞の位置とする。

3) 文型の基礎となる親文型とも称すべきものは前号のを改めて次の6文型とする。文型の数字は第1図の円球構造の1～5部を示す。1部は主語、2部は述語、3部は目的語・補語、4部は修飾語、5部は4部以外にあらわれる修飾語の位置である。

A文型	1+2
B文型	1+2+4
C文型	1+2+3
D文型	1+2+3+4
E文型	There(Here)+2+1+4
F文型	$\frac{1+2(1+3+4)}{5}$

F文型については、5部が1・2・3・4部のすべてに関係を持つことから特別の式とする。

先に記した『必修文型の研究』が、文型設定に際して副詞語句の扱いに注意している点に同感である。

4) 従来の文型が単文・複文に共通した1種類の文型で処理されていたが、これを改め、単文で2種類、複文で1種類の文型とする。それらをG型、P型、W型と名づける。

G型は上の6文型の各部が1語のもの、

(例) We are Japanese.

P型は上の6型の各部のうち、2語以上をふくむ部のあるもの、

*外国語系列(Department of Liberal Arts and Sciences—Foreign Languages)

(例) The teacher bought a new car.

W型は上の6文型の各部のうち、節 (clause) をふくむ部のあるもの、

(例) I know what John can play.

とする。

5) G・P・W型を3個の基本型とし、疑問文、命令文、感嘆文、祈願文などで、基本文と異なるものはすべて基本文の変型として扱う。

6) P・W型ではitが仮主語、仮目的語となる文型があり、これらを代表型として別扱いする。

7) 3部は広義の補語の位置である。前号におけると同様に次の2文は2個の目的語を持つ文とする。

He showed me his album.

He showed his album to me.

これには少しの問題はあろうが、日本語訳の場合を重点に考えれば好都合であろう。

なお、不定詞の扱いについては、最も問題が多いのであるが、そのひとつである次のa, bについては、c, dの文から考えて、aの不定詞は目的語、bの不定詞は目的補語と考えられよう。

a) He promised me to come.

b) He wanted me to come.

c) He gave me a camera. (目的語)

d) He called me Tom. (補語)

もちろん、日本語の訳文から考えれば、promise (約束する) と、want (望む) の語の性質が違うために円球構造の基本原則に従って訳す場合

a) 彼は来ることを私に約束した。

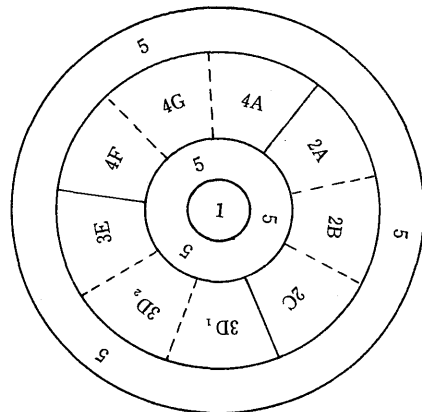
b) 彼は来ることを私に望んだ。

と和訳しても、誤解を生ずることはない。

英語を日本で学ぶ場合、英語はその意味がわかることが第一であり、それらを借用して話したり書いたりするのが普通である。幼い時から身にしみるように覚えてきた母国語の場合とは違って、英語で全く新しい文——聞いたり読んだりした経験がない文であってしかも正しい用法の文——を作り出すことは日本人にとって至難なことであろう。

このように考えてくると、新しい文法理論を尊重することはもちろんであるが、それと同時に古い Onions の文法書のなかにも日本における英語学習に有用な知識が盛られているのを感じる。

8) He lives in New York. の文で、livesはこの場合、補語を必要とすると思われ、他の補語を持つ文と比較する時、in New York を補語として3部に位置させ



第 1 図

ることが至当と考えられる。同様に The book is on the desk. の on the deskを、また School is over. の overも、補語として3部に位置させることとする。

2

アメリカやオーストラリアの小学校の教科書を見れば3年生4年生の国語の教科書は内容としては小供向きであるが、文章構造から見れば複文を多くふくんだ内容で日本の中学・高校の英語学習にあてはめれば、かなり程度の高いものである。しかしながら、これは当然のことであって、日本の小学校の教科書を見れば、同様に多くの複文を見出すのである。

文部省が新しく定めた新指導要領の内容とその授業時間の少いことから考えれば、中学校における授業は今後G型・P型に属する文の学習徹底が主となるであろうし、いわゆる複文をふくんだW型に属する文の学習が、高等学校の英語学習の中心となるであろう。

さて文型のG型であるが、各要素が1語の単語であることから、実際に使用される文章の数からすれば、極めて少数の文がこのG型に属する。主語・目的語は名詞・代名詞・動名詞の1語に制限され、動詞だけに現在形・過去形の変化がある。変化の文型には命令型と疑問型が考えられる。

次に基本となるG型の文型を例文と共に表示する。文型の数は6、文の要素には1～5部のほかThereとHereが加わる。

第 1 表

文 型	型	G 型	
		並 型	変 型 (命令・疑問)
A	1+2	Tom came.	Listen! Who came?
B	1+2+4	He left there.	Come here. Who left there?
C	1+2+3	They are girls. We have hens.	Help me. Are they girls? Who are they? Have you hens? Who have hens?
D	1+2+3+4	He speaks English well.	Who speaks English well?
E	$\left. \begin{array}{l} \text{There} \\ \text{Here} \end{array} \right\} +2$ +1+4	There is water there.	Is there water there?
F	$\frac{1+2(+3+4)}{5}$	He always sleeps well.	Who always sleeps well?

3

P型の基本となる文型はG型の6文型と同じであるが、1, 2, 3, 4, 5の各部の要素のうち、1部以上の部が2語以上の語の集まりとなることから、ひとつの基本文型からいくつかの下位文型が考えられる。

1部については、その中心の主語に名詞・代名詞・動名詞・不定詞などの区分があり、それにつく修飾語の前位・後位など位置の問題もあり、もしこれらを考えて文型を設定するとしても数種類の下位文型となろう。

また2部の述語のA, B, Cの組み合わせを、時制や法や態を考慮して下位文型の設定を考慮するとすれば多数の下位文型を設けなければならないだろう。しかしながら、実際に当って、文型の数を無数に増加することは学習用としては不適當であり、また前述 1・2 部のことは各部の文法事項として、文型とは別に学習の進捗が進むにつれて学習することが適當と思われる。従って最初に述べた目標に従い、文型の数なるべく少くするために下位分類の文型は3部の目的語・補語による分類を主とし、他はなるべく避けることとした。

下位区分をふくむP型の文型は次のようである。

(並) は並型, (変) は変型, (代) は代表型を示す。

PA 1+2

- (並) 1. A storm came. (主語 2 語)
 2. I cannot skate. (述語 2 語)
 3. A storm is coming.

- (変) 1. Don't cry. (命令)
 2. Can your brother swim?
 Who is coming? (疑問)

3. How beautiful it is! (感嘆)

4. May you succeed? (祈願)

(代) 1. It is wrong to tell a lie.

PB 1+2+4

(並) 1. Our school begins at eight.

We will come home tomorrow.

I have been working since six o'clock.

2. All the parents came to enjoy the evening. (4-不定詞)

This boy grew up to be a lawyer.

3. I am sorry to hear that.

(注) am sorry は2部の動詞句

(変) 1. Don't move about.

2. Will you come home tomorrow?
 When will you come home?

3. How well he speaks!

4. Long may he live!

5. After dinner I went to the movies with Tom.

(代) 1. It is easy now to look for two-leaf clover.

PC 1+2+3

PC-a 1+2+3D

(並) 1. The arrow struck the apple.

2. We put on the funny paper hats.

3. He began cutting the tree.

4. Cold wind began to blow.

5. They learned how to swim.

(変) 1. Don't tell a lie.

2. Has she cleaned her room?

How much do you want?

3. What a lovely girl they have!

4. May God save the queen!

PC-b 1+2+3D₁+3D₂

(並) 1. Her son told her the story.

He found me a good job.

2. They sent their stamps to me.

3. They told the others to follow him.

4. I'll tell you where to go.

(変) 1. Give me some stamps.

2. Did her son tell you the story?

Who told you the story?

3. May God show us the way!

PC-c 1+2+3E

(並) 1. His father is a doctor.

2. She felt sleepy.

3. School is over.

4. He lives in Chicago.

5. The best thing is to eat fruit.

(変) 1. Is your father a doctor?

Who is the doctor?

2. What a good father he is!

How happy he looks!

3. May this be your blessed experience!

(代) 1. It is no use crying over spilt milk.

Be quiet. は「1+2」の変型に入れるけれども形容動詞には命令形がないので、この点では「be 動詞+形容詞」が形容動詞とは一致しない。

PC-d 1+2+3D+3E

(並) 1. They called this city New Amsterdam.

2. My tail keeps me warm.

3. I saw him go away.

4. I want you to know about him.

5. He watched them swimming.

6. We have our food served.

(変) 1. Keep the door open.

2. Did you see him go away?

Who saw him go away?

(代) 1. I felt it my duty to go.

PD 1+2+3+4

PD-a 1+2+3D+4

(並) 1. She brought a big book from her study.

2. John can play the piano very well.

3. I haven't a pen to take the message down.

(変) 1. Cover the picture with your hand.

2. Did she bring the big book from her study?

Who brought the big book from the library?

3. Lord have mercy on us!

4. On March 18, 1875, Bell had an important talk with Professor Henry. Turning to the left, you will find the post-office on your right.

PD-b 1+2+3D₁+3D₂+4

(並) 1. My wife will give you your lunch now.

2. I'll show it to you tomorrow.

(変) 1. Lend me your racket on Saturday.

2. Will you show it to me tomorrow? Who will bring it to me this afternoon?

PD-c 1+2+3E+4

(並) 1. My father was in New York last year.

2. The baby will grow big soon.

(変) 1. Do you feel better this morning?

PD-d 1+2+3D+3E+4

(並) 1. He made us work there five years ago.

(変) 1. Did he make you work there five years ago?

Who made you work there five years ago?

P型の文には副詞語句を伴うものは多いが、このPD-d型の文は目的補語を持ち、そのあとに副詞語句がある場合、そのほとんどが、前の目的補語となる動詞を修飾していると考えられるものである。

PE There(Here)+2+1+4

PE-a There+2+1(+4)

(並) 1. There is a chair in the room.

2. There comes an end to all things.

(変) 1. Is there a chair in the room?

What are there in the room?

2. Long ago there lived an old man.

PE-b Here+2+1(+4)

- (並) 1. Here is a desk.
2. Here are Joe and Ann again.

(変) 1. Here you are!

PF $\frac{1+2(+3+4)}{5}$

- (並) 1. They are always cheerful.
2. One poem sometimes makes its writer famous.
3. The lady sitting in the corner is my aunt.
4. This book, written in simple English, is suitable for beginners.
- (変) 1. Always be careful.
2. Do you often play tennis with your father?
What time do you usually start for school?

4

W型の基本となる文型もG型の6文型と同じであるが文の要素のうち、1・3・4部に節 (clause) が入ってくる。

この型の例文は自然に長文になるので、並型と代表型を示すこととし、変型を省略することとした。

WA 1+2

- (並) 1. What he says is true.
(代) 1. It is true that he is honest.

WB 1+2+4

- (並) 1. The dog growled till she spoke to him.
That the air has weight is shown by a simple experiment.

WC 1+2+3**WC-a 1+2+3D**

- (並) 1. The teacher said that dolphins are not fish.
2. I cannot understand what you say.
3. They did not know what it was like.

WC-b 1+2+3D₁+3D₂

- (並) 1. She told me that her mother was ill.
2. He asked me what I had been doing.

WC-c 1+2+3E

- (並) 1. It seemed that the day would never end.

2. The question is who did it.

3. Whether it is a good plan or not is a question.

(代) 1. It is a pity that he died so young.

WC-d 1+2+3D+3E

(並) 1. They have made her what she is.

(代) 1. I thought it a pity that you shouldn't try harder.

WD 1+2+3+4

(並) 1. They did it precisely as they had been told.
You'll be able to do that when you are a man.

(変) 1. As he approached the village, he met a number of people.

WE There(Here)+2+1+4

(変) 1. Where there is a will, there is a way.

There (Here) ではじまる文で、1部 (主語を含む部) が節になっている例は、中学・高校の教科書には無くても他の本にも容易に見出せない。物の存在を示す形としてのthere is..., there are...の持つ内容が, have, see, find などの動詞を使った異なった表現であらわされることによるのであろうか。ここには副詞節を含む上の諺を特に変型として例文とした。

WF $\frac{1+2(+3+4)}{5}$

- (並) 1. All those boys whose parents are living abroad will spend the summer holidays with friends.
2. People in those days thought that there was a passage between the Pacific and the Atlantic round the North of Canada.
3. The Empire State Building, as you know, is one of the highest buildings in the world.

最後のWF文型は複文あるいは混文であって、その変化の例文をすべて挙げれば、相当多数となるであろう。いわゆる入試問題や、文芸作家の難文となれば、すべてがこのWF型に入る。

5

以上下位文型をふくめて27文型とした。この文型では、文の要素 (主語・述語・目的語・補語・修飾語) の

組み合わせによって文型を決定した。要素のみによっての分類で疑問の起る点を考慮して、文部省の示す指導要領は、文の要素と品詞名を用いて文型を示している。また最近の英米の書は品詞名だけで文型を示しているものもある。

この文型が英語学習者のためという目標に従うためには、何れがよいかは問題であるが、円球構造の5部の構造から考える時、要素だけによる文型設定が、一貫性があり、要素と品詞名の混乱もなくすむものと考え、要素による文型設定をした。

なお、最初にいくつかの問題点を記したが、その他の問題として次のようなものがある。

1) be 動詞だけを別に考える学者は多い。しかしながら、もし be 動詞だけを分けて文型を設定すれば、それだけ文型の数が増すこととなる。be を分離して考えることはすっきりはするけれども、文型の数の増加の点で賛成できない。

2) Let us go at once. は例文として挙げてはいないが、前号と同じく、PD-d の変型として扱うがよいと思われる。基本型を理解した上での変型は容易に理解されるものと思われる。

3) 受動態の文型を特に設けることをするものも見られるけれど、動詞の時制や、態や、法は文法事項として円球構造の2部の領域内のこととして理解することがよいであろう。

文 献

- 1) Joseph Devito: *The Psychology of Speech and Language*, 1970, Random House, Inc.
- 2) Robert Krohn: *English Sentence Structure*, 1971, The University of Michigan Press.
- 3) C.T. Onions: *An Advanced English Syntax*, 1929, The Macmillan Company.
- 4) C.C. Fies: *The Structure of English*, 1957, Longmans, Green and Company.
- 5) Paul Roberts: *Patterns of English*, 1959, Harcourt, Brace and Company.
- 6) Paul Roberts: *English Sentences*, 1962, Harcourt, Brace & World, Inc.
- 7) W.S. Allen: *Living English Structure*, 1952, Longmans, Green and Co. Ltd.
- 8) J.O.A. Herrington: *English Patterns and Structure*, 1969, Heinemann Educational Books.
- 9) F.R. Palmer: *A Linguistic Study of the English Verb* (安藤貞雄訳『英語動詞の言語学的研究』1972, 大修館書店)
- 10) Roderick A. Jacobs, Peter S. Rosenbaum: *An Introduction to Transformational Grammar* (松浪有訳『基礎英語変形文法』1971, 大修館書店)
- 11) Everett Kleinjans: *A Descriptive-Comparative Study Predicting Interference for Japanese in Learning English Noun-head Modification Patterns*, (伊藤正訳注『日英両語の比較と英語教育』1970, 大修館書店)
- 12) Robert Lado: *English Sentence Patterns*, (伊藤健三郎訳注『英文の型』1957, 大修館書店)
- 13) A.S. Hornby: *A Guide to Patterns and Usage in English*, 1954, Oxford University Press
- 14) 長谷川・松浦・石上: 必修文型の研究1970, 開隆堂
- 15) 安井稔: 変形文法の輪郭1971, 大修館書店
- 16) 橋本進吉: 国語法研究1969, 岩波書店
- 17) 橋本進吉: 助詞・助動詞の研究1969, 岩波書店
- 18) 大塚高信編: 新英文法辞典1971, 三省堂
- 19) 中部工学会紀要第6巻1970
- 20) 中部工業大学紀要第7巻1971